

郵便切手のおまけ。

或る田舎者が、郵便局へ来て、三錢の郵便切手が高いといふのでしきりに二錢五厘に負けるといつて値切つて仕様がなないので、局員殆ど持て餘して居つたが「これは、此價がチャンと定つて居て錢では引くことが出来ぬのだが、そゝねぎるなら仕方がないから品物の方でまけてやる。」

と云ふので白い紙が半分ばかりも附いてる端の方の切手を賣つてやつた所が、田舎者は

「そだから、何でもねぎらねば、損なかつた」

謎々

- (一) 蚊の最期は(みのおはり、美濃尾張)
- (二) 東洋の聖人を御飯道具とは(釋子)
- (三) 雨夜の三味線を文房具二とは(インキトペン、陰)

氣でべんく)

(四) 武士の喧嘩を郵便に使ふものとは(切手四枚、斬つて仕舞ひ)

この次の考へもの

(一) きつね上下をぬいで、お婆れば、むぢなも上下をぬぐ。(植物の名二つ)

無理のことはするな

羽山好作

昔海邊の澤に、長らく住んで居る龜がありまして其の友達に二羽の鶴がありました。或る時龜は海岸の岩の上で、海の景色を見物していましたとき、ちよと、日頃こんいの鶴が遊びに来ました。すると龜は、鶴に向て云ふことに、君等は翼があるから、毎日高く高く空中を飛びあいて、日本中の廣い都をも、一日に

見下し。さぞ面白いことでしょー、ついでには、友だちのよしみにも、僕をつれて、空中の遊をさせてくれ玉へ」。鶴「それは君の考は、まことに無理のことである。なせなれば僕等は、羽があるから、飛ぶことは、自由自在だけれど、君は、長く水中に住ひしてるから、逆も空中の見物は、六づかしい。これはみな、それ／＼の生れつきだから、あきらめ玉へ」。と、とめましたが、なか／＼きかないものですから、鶴はしかたがなしに、一本の棒のまんなかを、龜にくわへさせて、二羽の鶴は棒の兩はしをくわへ、龜にどんな事があつても、けつして口をわいては、ならないと注意して、空中高くまひあがりました。其のうち程なく、或る町のきんとよへゆきましたととき子供がおーせい、あそんでをりました、すると一人の子供が、此のありさまを見付けるど他の者までさわぎだして、わる口をいひてはやし

した。で、龜はくやくしくなつて、腹たちまぎれに、子供たちを云ひまかそーとして、さきに鶴から注意された事を忘れて思はず口をわいたひよーしに、からだは忽ち棒を離れまして、大地にどーとおちて、甲もからだも、こなく／＼にくだけて、せー／＼死にました。ですから、たれでも、自分の生つきで、出来ないことは、したがらないのがよいのです。若し無理にしたがると、此の龜のよーに、自分の命をなくすことがあります。



家庭

子母里そーだん、

こにし のぶはち

人類の有らん限り、無くてならぬわ良妻賢母であり